

地域と農業を結ぶ、ふれあいと絆の発信源

Agresh

2018. VOLUME.97

4

あぐれっしゅ

特集 所得増大へ事業体制強化

管内10カ所で地区別懇談会開催

早く一人前になりたい!

「みんなのよい食プロジェクト」とは、これからの日本人にとって「よい食」とは何かを、日本の農家とJAグループ、消費者のみなさんと一緒に考えて、行動していく運動です。



腕じまん

地域じまんのモノ語り

JA管内はナガイモ春掘り最盛期!

ミネラル野菜のPR活動の一環で当JA職員と都内在住の野菜ソムリエ・タナカトウコさんがテレビ埼玉に出演し、管内産ナガイモのおいしさ、機能性を伝え、消費を呼びかけた。テレビで紹介されたナガイモレシピです。



プロフィール…タナカ トウコさん
東北町(上北)出身。ベジフルビューティーアドバイザー、漢方アドバイザー、漢方カウンセラー(漢方臨床指導士)、養生薬アドバイザー等。

おすすめ料理
TOM-VEGE
ナガイモの落とし焼き

レシピ作成/野菜ソムリエPro. タナカトウコ

材料	
TOM-VEGEナガイモ	150g
鶏ひき肉	60g
ピザ用チーズ(細切りタイプ)	30g
塩	ひとつまみ
こしょう	少々
オリーブオイル	適宜

作り方

- ①皮をむいたナガイモを厚手のビニール袋に入れ、すりこぎ等で叩いてつぶす。
- ②ボウルに①と、鶏ひき肉、ピザ用チーズ、塩、こしょうを入れて混ぜる。
- ③フライパンにオリーブオイルを熱して、スプーンで②を落とし入れる。
- ④蓋をして中火で焼く。焼き目がついたらひっくり返し、蓋をせずに焼く。



Point

テフロン加工のフライパンで多めの油で焼くと美味しくいただけます。冷めた状態でもおいしいので、お弁当にぴったりです。

食と農の情報アプリ「JA旬みつけ!」を
4月から運用開始
～JA全中～

JA全中は食と農の情報発信の一環として、新たな食のアプリを開発し、4月から運用を始めた。全国のJAファーマーズマーケット(直売所)やJAが直接情報を発信する機能を持っており、アプリ利用者に旬の農産物情報やJAに関する情報を届ける。当JAも同アプリを通じて情報発信できるよう準備を進めている。同アプリは、いつでも旬の野菜やレシピをチェックして知ることができる「食材辞典」がメイン。是非一度、ご覧になっていただきたいです。



次回外務予定日 5/12(土)～16(水)



3月27日撮影

早く一人前になりたい!

▲祖父の信雄さんから機械操作を教わる

表紙写真紹介

● シリーズ 日本の農業に生きる後継者 Vol.73

けいしょうびと



まつだ しょう
下田支店管内 松田 昇さん(27)

祖父が農業の師匠

大学卒業後、会社勤めを経てUターンし、就農3年目。長男の昇さんは、専業農家の6代目になる。高校、大学時代は、ラグーマンとして活躍した。身長180センチを超えるがっしりとした鍛えた体で作業をする。

農業の師匠は、祖父の信夫さん(80)で、機械の操作方法や種まき、収穫、栽培管理など、一通りの作業を教わっている。

「農作業のすべてが体にしみついているから何があっても対応できて凄い」と、祖父を羨望のまなざしでみる。

ダイコンの収穫の際は、掘り取り機械の操作を一手に任されている。「葉が短くても長すぎてもダメ」で、畑の微妙な高低差を機械操作で慎重にコントロールし掘り取りする。祖父は「筋がいい」と太鼓判を押す。

おいらせ町の春は早い。3月中旬から家族と一緒にニンジンのトンネル栽培に励む。降雪に強風と不安定な天候のなか、1日30~40℃の畑に種を播く。種を播いてから支柱をたて、生育を早めるためにビニールで覆い、さらにポールで押さえて風対策をする。およそ1週間かけ、2.2畝分をは種した。

収穫は6月中旬頃。昇さんは「良質なニンジンに仕上がるよう、しっかり管理していく」と気を引き締める。

働いた分だけ見返りがある

農業の魅力について「自分のやりたいようにできる。天候に左右されるところもあるけど、働いた分だけ見返りがある」と、会社勤めとは違う大きなやりがいを感じている。最近では、JAの勉強会や講習会にも積極的に参加し、同世代の仲間と技術や悩みを共有したり刺激も受けている。

今後の目標は「作業のすべてを体にしみこませて、しっかり良いものを生産したい。自信がついてきたら少しずつ面積拡大していければ」と話す。そして師匠の祖父・信夫さんは「早く嫁さんを」と願う。

プロフィール…まつだ しょう おいらせ町豊栄組合員=悦子さん
家族構成/祖父母、父、母、弟
農業経営/ダイコン3畝、ニンジン3.5畝

第8回

JA十和田おいらせ 牛肉まつり開催



開催日時:平成30年4月29日(日)
午前11時~午後3時まで
開催場所:本店駐車場
(十和田市西十三番町4の28)

◆唄と踊り、カラオケ大会、お楽しみ抽選会などで、まつり会場を盛り上げます。



参加チケット

十和田湖和牛肉350g、焼き道具一式貸与など、1セット 2,500円(税込)。

前売券取扱所

JA本店畜産課、十和田市役所農林畜産課で4月12日(木)から取り扱いしています。当日は十和田湖和牛の牛肉即売会も行います。

詳細については、当JA畜産課まで。TEL.0176-23-0332

金融部 ローン相談会(本支店のご案内)

毎月第3日曜日 9:00~15:00

相談会場
本店・下田支店
むつ支店
上北支店・七戸支店

4月 15日
5月 20日

農業機械・農業に関わる設備資金等の相談も承ります。



24時間365日受付中

各種ローンがネットで仮申込みできます。検索方法は「JAネットローン」で検索!!

JAバンクなら給与振込がおトク!

いま、JAバンクを給与受取口座として新たに指定いただくと 松下奈緒のJAバンクオリジナルQUOカード

5,000円分をプレゼント!



お申込期間:平成30年5月末日まで(当日消印有効)

※対象:平成30年2月から6月に新たにJAで給与受取口座を指定し、いずれかの月において5万円以上の給与のお受取りが確認できたお客さま。

もくじ contents

あぐれっしゅ

vol.97

4



特集 4~7p

所得増大へ事業体制強化

~管内10カ所で地区別懇談会開催~

・米穀畜産部
JA牛肉まつり開催 4/29
・金融部
ローン相談会 4/15、5/20 2p

継承人 表紙写真紹介

松田 昇さん(下田支店管内) 3p

NEWS&TOPIC 地域の話 8p

・野菜振興会総会
・年金友の会「歌謡ショー」、漫談楽しむ
・子牛管理品評会 -ほか

あぐれっしゅ情報① 11p

・総務部 学習の成果を披露
・指導やさい部 3月の販売要請報告

あぐれっしゅ情報② 12p

・新採用職員紹介/人事異動

あぐれっしゅ情報③ 16p

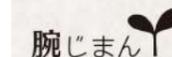
・産直部署 産直アンケート調査報告

頭の体操 パズル? 17p

information 18p

・竹ヶ原組合長がJA全中の功労表彰者に
・平成31年度 新採用職員募集
・理事会だより -ほか

役員室のつづき



腕じまん

地域じまんのモノ語り 20p

・テレビ埼玉でナガイモ消費拡大呼び掛け
~JA職員と首都圏在住の野菜ソムリエ出演~

※定期人事異動の紹介等で今月号は通常より4ページ増の誌面構成となっています。

JAの概況 平成30年4月1日現在

正組合員数/6,642人

准組合員数/5,122人

役員数/26人

職員数(准職・嘱託含)/292人

貯金高/780億3,549万円

貸出高/145億9,153万円

経済事業改革

配送拠点へ倉庫新設
～機能強化、コスト低減へ～

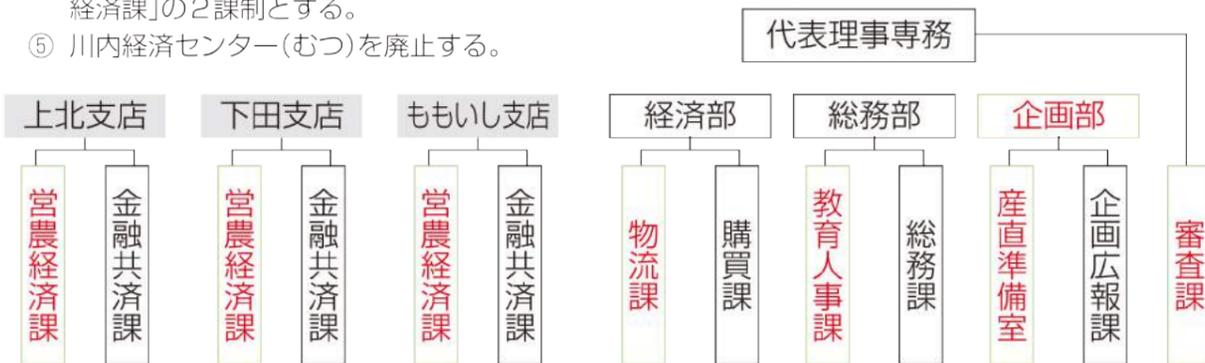


▲3月中旬に完成した資材配送センター第2倉庫

当JAは3月中旬、十和田市高清水の資材配送センター敷地内に第2倉庫を新築した。収容能力は47,000袋(1袋20^{kg})。昨年3月に完成した第1号倉庫と合わせて約10万袋になる。4月からは敷地内に新たに物流課を配置し、生産資材の配送拠点とする。JA全体の配送や在庫を一元管理し、事業の機能強化とコスト低減を図る。支店ごとに行っていた配送業務の集約により、人手不足や在庫水準の高さなどが改善されることで約4千万円の事業コスト低減を見込む。さらに肥料等の野積み保管が解消されることで、乱袋を防ぎ成分の品質保持の効果を発揮できる。配送以外の資材全般の自己取りは、各支店等の購買窓口で対応する。

組織機構の変更

- ① 審査機能の独立性を確保するため、「審査課」を金融部から、代表理事専務直属の独立部署とする。
- ② 「企画部」を新設。産直施設の設置に向けた「産直準備室」と企画広報課の2課制とする。
- ③ 総務部に職員の人材育成と人事管理の強化のための「教育人事課」を新設。総務課との2課制とする。
- ④ 経済事業物流改革により、経済部に「物流課」を新設し、物流コストの軽減と合理化を図る。購買課との2課とする。ももし支店・下田支店・上北支店は営農販売課と購買課を集約し、他支店と同様の「営農経済課」の2課制とする。
- ⑤ 川内経済センター(むつ)を廃止する。



特集

所得増大へ事業体制強化

管内10ヵ所で地区別懇談会開催

当JAは3月7日～9日までの3日間、管内の10ヵ所で地区別懇談会を開き、農家組合員268人が出席するなか平成29年度の事業動向と平成30年度の農家所得増大に向けた事業改革などについて説明した。子会社を含む全事業で計画通りの決算見通しであることを報告。平成30年度は、農家所得増大に向けた経済事業の物流改革や事業の機能強化を目指す組織の機構改革を行う。

新年度の取り組みの重点と懇談会で出された主な質疑応答を紹介したい。



29年度
所得増・生産拡大へ約1億4,300万円支援
～面積拡大分の種苗費助成、利用奨励金など支払い～

▶ やさい産地拡大対策事業に係る助成金の支払いについて
(対象期間:平成29年6月1日～平成30年2月28日まで)

	対象戸数(人)	助成金額(円)税込
品目助成	103	8,563,568
ムカゴ購入助成(1/3)	198	4,581,562
土壌診断料助成	1,023	1,848,420
計		14,993,550

▶ やさい集荷対策金の支払いについて
(対象期間:平成29年1月1日～平成29年12月31日まで)

	対象戸数(人)	助成金額(円)税込
やさい集荷対策金	1,621	60,452,900

▶ 肥料・農薬・ダンボール奨励金の支払いについて
(対象期間:平成29年1月1日～平成29年12月31日まで)

	対象件数	助成金額(円)税込
肥料ランク奨励金	1,766	36,097,316
農薬大口利用奨励金	230	10,541,106
ダンボール出荷奨励金	1,537	20,571,081
計		67,209,503

(支払い日:平成30年3月23日(金)) ※3月理事会資料

みなさんの声を お聞かせください

主な質疑応答

指導やさい部

Q 第三次地域農業振興計画にある、やさい一品目一施設に集約した場合、各支店の農産物の集荷方法はどのように考えているのか。

A 今後二年間で生産部会と具体的な内容を協議し、この先10年の長期的な計画のなかで整備していきたいと考えています。集荷方法は、一次集荷・二次集荷等を検討しています。

Q ダイコン選別機の更新が遅れた理由を伺いたい。

A 施設作業員の確保が難しく、現場の要望による設計の見直し等で理事会への提案が遅れたのが原因です。更新工事により、今年の選別作業に支障が出るようであれば、今シーズン終了後の工事とする等、現場や生産者と連携しながら対処していきます。

経済部

Q 生産資材の価格等で、合併のスケールメリットが現れていないように思う。物流改革によって事業利益がでるのか、肥料等の資材価格が下がるのか。

A 今回の経済事業改革で、配送業務の集約により約4千万円の赤字解消を見込んでいます。購買業務の効率化を高め、ダンボールや肥料等の奨励金として農家に還元できるように努めていきます。

Q 購買事業の落ち込みの原因は何か。

A 肥料価格が年2回下がったことや、農薬等の原価算入商品が多くなり、供給価格が下がったことが原因です。

Q 物流改革によって肥料・農薬は十和田市まで買いに行かなければならないのか。

A 自己取りに関しては、支店に物がなくなるわけではありませぬ。最低限の在庫を置き組合員へ迷惑をかけないように対応します。配送、在庫管理を高清水配送センター内の物流課が行うということです。

Q バレイシヨの収穫作業は、労力不足が懸念されるため、コントラクター方式を検討できないか。

A 支店、野菜振興会等の協議の上、検討していきます。

Q 花き振興会は、野菜振興会と合併することでしたが、どうなったのか。組織助成金は今後どうなるのか。

A 合併交渉は進みませんでした。今後、営農センター構想による組織再編が見込まれているため、現時点での合併は見送りとなっております。助成金については、組織再編時に検討することで組織代表者会議で了承を得ています。

米穀畜産部

Q 平成29年産米の最終精算はどれくらいになるのか。

A 現在まで1俵あたり概算金11500円に10000円の追加払いをしています。今年9月頃に仮精算を行い、最終精算は来年4月頃を予定しています。



金融部

Q 審査課の体制は、どのようになっているのか。組織機構の変更で、審査課が専務直属となるがなぜか。

A 審査課は3人体制で、金融部に属していましたが、けん制機能確保のため専務直属として独立させるものです。

共済部

Q 共済満期後の継続指導が足りないように思う。

A 満期日の1カ月前に案内の手紙の送付とLAの個別訪問をし、継続の案内もしています。今後丁寧な説明、適切な対応に努めていきます。

Q 米の検査で、なぜ余升を入れなければならないのか。飼料用米にも必要なのか。またフレコン出荷も可能にして欲しい。

A 余升は、検査品の抽出や保管・流通過程で目減りすることが想定されることから規定で定められています。飼料用米も同様です。フレコン出荷は支店窓口で説明いたします。

Q 平成30年度以降の減反政策に代わるものはあるか。水稻共済掛金は必ず掛けなければならないのか。

A 生産調整は今後、各市町村の再生協議会が主導していくこととなります。今後生産者の理解が求められることとなります。対象となる作物や助成金額等を参考に各自の作付け体系を考えていただければと思います。水稻共済は現在強制加入ですが、平成31年から始まる収入保険制度では、野菜や畜産を含めた収入保険制度が従来の水稻共済かを選択できます。加入は任意となっております。各自の経営状況を考え選択していただくこととなります。

総務部

Q 組合員数が減少しているのに理事の定数、総代選挙の定数に変更はないのか。

A 定数の規定があるため、今後見直しを検討していきます。

Q 施設の新社により、不稼働資産が増えるのではないか。

A 施設の老朽化に伴い修繕費が増えています。将来を見据えた施設の有効利用を行うため計画的な設置に努めます。

Q 農家の後継者対策で、今後の婚活事業をどう考えているのか。

A 婚活事業は、JAの農業総合支援室や市の農業委員会などと協力してイベントを企画開催しています。今後も後継者確保を含め、内部協議し取り組みの強化を図りたいと考えています。



Q 農協改革にある米と野菜の買い取り制は出来るのか。

A 買い取りは可能ですが、他県で米の買い取りを実施した結果、集荷率が悪くなった事例があることから、ほとんどのJAでは行っていません。野菜の買い取り販売は加工・ニンニクで行っています。他の品目については、市場販売以上の手取り額確保に向け、取り引き先などの十分な検討が必要であるため、協議していきます。



【子会社】

Q (株)エコーのブライダル事業について、若い人たちが少なくなってきた中で今後の方針を聞きたい。

A 結婚式の受付は、平成30年度から行わないことに決定しました。パーティー等の宴会は継続して行います。旅行事業は継続していきますので、ご利用をお願いします。

Q (株)協同サービスの葬儀事業について、今後の見通しを聞きたい。

A 家族葬など、葬儀の小規模化が進む中で、お客様のニーズに柔軟に対応していかねばならないと考えています。JAグループとして地域に寄り添った形の葬儀ができるよう社員研修やスタッフ確保に努めてまいります。

【要望等】

- ① 支店に青色申告の担当者がいなくなってきたから、一つ一つ対応が遅くなった。改善してほしい。
- ② 機械化銀行で貸出している機械等について、老朽化しているものは更新して欲しい。

■ 歌、漫談ショーを楽しむ

～JA年金友の会つどい～

当JA年金友の会は3月10日と25日に十和田市とむつ市の2会場で「JA年金友の会つどい」を開き、参加会員400人が歌、漫談ショーなどを楽しんだ。

JA本店での十和田市会場では八戸市出身の歌手、小西礼子さんが「八戸の女」「下北ストーリー大湊線」などを熱唱。会員がステージ上で小西さんとデュエットをする場面もあり、会場をわかせていた。

むつ市の来さまい館では、県内出身タレントの黒石八郎さんが津軽弁の漫談と手踊り、瀬川さとしさんが南部弁の漫談で参加者を楽しませた。

次回イベントは、5月の観桜会(十和田市官庁街通り)を予定。問い合わせ等は、本支店金融窓口まで。



▲十和田会場に歌声を響かせた歌手の小西礼子さん



▲むつ会場を盛り上げたタレントの瀬川さとしさん、黒石八郎さん

■ ポリシーブック作成の成果発表

～JA全国青年大会～

当JAと、JA青年部は2月27日、東京都のメルパルクホールで第64回JA全国青年大会に参加した。ポリシーブックの活用をテーマに、婚活イベントや新規部員増加で成果を上げた経緯を発表した。

当JA青年部のポリシーブックの作成・活用は2年目で、料理体験の婚活イベントや、動画サイトを活用した新規部員獲得の成果を紹介した。当JA農業総合支援室の畑山幸司さんが、JA職員と青年部員の連携で婚活事業の活動が活発化したことを発表。平館龍徳青年部長は「青年部とJAが一丸となり活動を盛り上げていくことが大切」と述べた。

3月4日の当JA青年部通常総会で新部長に佐々木祐輔(上北支部長)さんを選任した。



▲婚活イベントの取り組みを紹介するJA職員の畑山さんと平館青年部長(写真左)

■ 「まっしぐら」のおいしさ再確認

～米農家と地域住民が集う～

上北地域県民局主催の地産地食拡大フォーラムが3月7日、十和田市のJA本店で行われた。集まった米農家、地域住民ら70人が、県産米「まっしぐら」のおいしさ、優れた点などを再確認した。

生産者と消費者が集い「まっしぐら」の素晴らしさを共有し、地元消費とおいしい米づくりを推進するために開かれた。基調講演では、都内で精米店を経営する五ツ星マイスターの小池理雄さんが「和食、洋食にも合う懐の深い米。まだまだ楽しめる米」とまっしぐらに期待感を膨らませていた。ディスカッションでは、JA管内の赤沼営農組合のメンバーが米農家代表として登壇し、まっしぐらの消費を呼び掛けた。



▲生産者と消費者が交流を深めたフォーラム



知ってもらおう!
見つけ出そう!

■ GAPの取り組み計画

～持続可能な農業と安全・安心の確保へ～

平成29年度の野菜振興会通常総会が2月27日、JA本店で行われた。新年度の活動計画では、持続可能な農業と安全・安心の確保に向け、新たにGAP(農業生産工程管理)に取り組むことなどが盛り込まれた。また、役員改選では甲田一博会長が再任となった。

GAPは生産工程管理の取り組みで、産地が取り入れることにより、競争力の強化、品質の向上、労働者の安全確保、消費者や実需者の信頼の確保が期待できる。



▲天気予報の見かたを学ぶ参加会員

総会には、部会員200人が出席。本年産の野菜生産は8月の低温長雨、日照不足の影響は大きかったが、生産農家の栽培努力や主力作物のナガイモ、ニンニクの販売価格が堅調だったことから計画対比101%の88億円(1～12月実績)となったことを報告した。

総会前には、アップルウエザーの小林貴子気象予報士による「農業に役立つ天気の話」の記念講演が行われた。

■ 協同の力で活動しよう

～JA女性部総会～

JA女性部の通常総会が3月6日、本店で開かれ、女性部員200人出席のもと、新年度は協同の力で地域の伝統と食を守り継承していくことなどを決めた。記念講演では、今までの災害を教訓にした防災に対する心構えを学んだ。

当JA女性部は560人で構成され、7支部で活動している。総会のあいさつで竹内勝子女性部長は「仲間こそ力になる。協同の心、協同の精神で互いを支え、できることから活動し、住みよい地域づくりに貢献していこう」と述べた。

記念講演では、青森県防災士の藤本源城さんが、防災ずきんの活用法や警笛が必需品であることなどを説明。「いつ起こるか分からないから備えが必要。地域での防災訓練も重要だ」と呼び掛けた。



▲記念講演で、防災を学ぶ女性部員

■ 米の低コスト生産へ

～稲作振興会総会～

JA稲作振興会の平成29年度通常総会が3月2日、JA本店で行われた。参加会員100人出席のもと、新年度は低コスト稲作の推進、展示圃場設置による技術情報の提供などに取り組んでいくことを決めた。また、役員改選では新会長に小川広徳さん(十和田湖支部)を選任した。

総会前には、農機メーカーの「ヤンマーアグリジャパン」と「みちのくクボタ」による低コスト稲作について講演があり、出席した稲作農家200人が手取り額確保に向けて栽培のポイントなどを学んだ。



▲低コスト稲作を学ぶ参加会員